



2018年、生誕120周年を迎える新発田市出身の落谷虹児(1898~1979年)。虹児は1920(大正9)年から少女雑誌の挿絵や表紙を描き、絶大な人気を博しました。当時、虹児と少女人気を二分した画家が高島華宵(1888~1966年、愛媛県宇和島市出身)です。少女たちは「華宵党」「虹児党」などと張り合って、彼らの描く抒情画に夢中になりました。大正末から昭和初期の雑誌や、挿絵原画などから当時の流行を振り返るとともに、現代の「かわいい」文化の源流として二人の抒情画家の画業を紹介します。

月いちレクチャーのご案内  
12月23日(土)、1月27日(土) 各日とも午後2時から30分程度、展示室内にて学芸員による解説会を行います。参加費無料(ただし当日の入館券が必要)、申し込み不要です。

落谷虹児 生誕120年記念

少女人気を二分した

抒情画家

# 虹児と華宵



Koyu Kōjiya & Kasho Sakabatake

2017年  
12月15日~  
(金)

2018年  
2月12日  
(月・祝)

会場 / にいがた文化の記憶館 メディアシップ5階  
開館時間 / 午前10時~午後6時(入館は5時30分まで)  
休館日 / 月曜日(1月8日)、2月12日は開館、  
12月28日(木)~1月3日(水)、1月9日(火)

入館料 / 一般500円、高校生以上の学生300円

中学生以下無料

※20名以上の団体、または「神の手ニッポン展II」のチケットご提示で各料金から2割引。

主催 / にいがた文化の記憶館、新潟日報社  
共催 / 新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST  
協力企業 / 田村紙商事株式会社  
協力 / 新発田市・落谷虹児記念館、アルテイズ、株式会社キュレーターズ



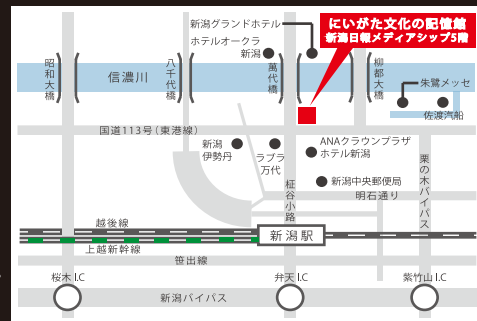
高島華宵「少女画報」表紙(1928年) 個人蔵

NMNC にいがた文化の記憶館  
Niigata Memorial Museum of Culture

〒950-0088  
新潟市中央区万代3-1-1  
新潟日報メディアシップ5階  
Tel.025-250-7171  
Fax.025-250-7040  
http://nmnc.jp/

◆交通のご案内  
新潟駅から タクシー約5分、徒歩約15分  
新潟空港から タクシー約15分

◆駐車場のご案内  
メディアシップ駐車場(24時間。時間貸しスペースは3、4階77台)220円/30分、夜間最大料金有り。  
万代シテイ共通駐車サービス券をご利用いただけます。  
当館では駐車券の無料券を発行しておりません。予めご了承ください。  
周辺には万代シテイ駐車場、朱鷺メッセ駐車場などもございます。



割引券  
本券につき2名様まで  
一般・学生料金  
各種団体料金  
(切取不可)